

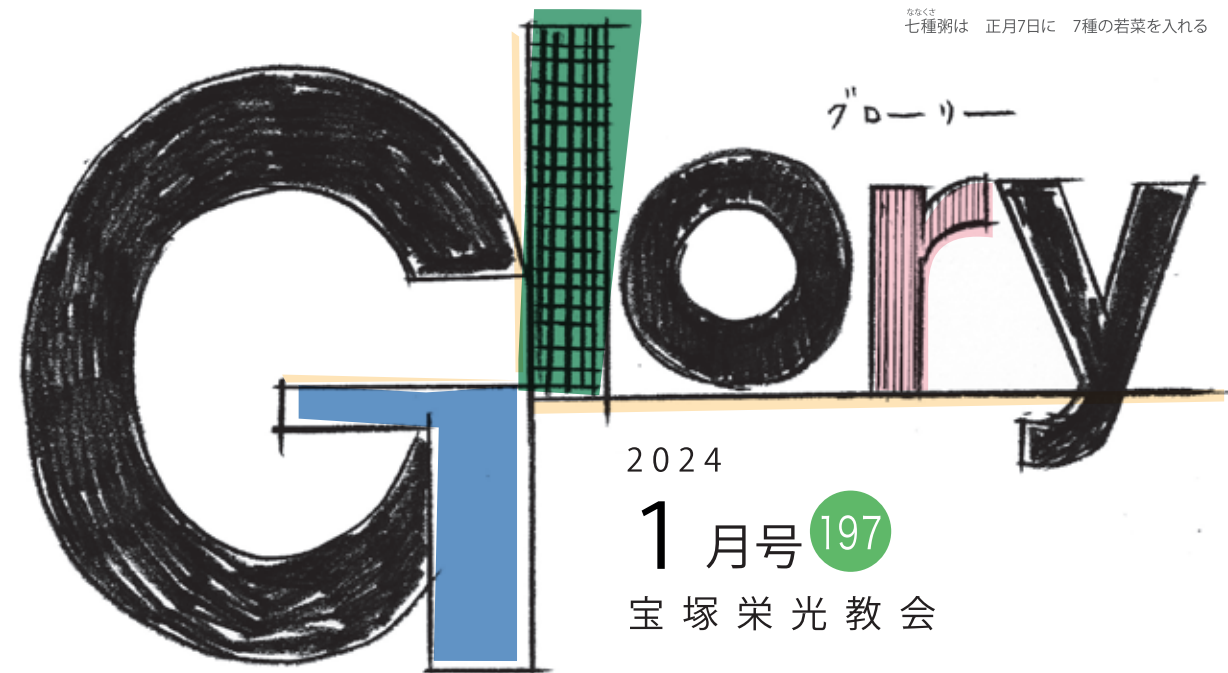
各地の自然災害で被災された方々、戦禍の中にある方々に、心からお見舞い申し上げます。
神様の慰めと助けがありますように、お祈りしております。

七種粥は 正月7日に 7種の若菜を入れる

宝塚栄光教会では次の集会を行っています。どなたでもお越しください。

主日礼拝 日曜日 午前10:30～11:40
日曜日を聖なる日として神様に礼拝をささげます。讃美歌を歌い、祈りをささげ、聖書から語られるメッセージに耳を傾けます。

子どもチャペル 日曜日 午後1:00～2:00
子どもたちのために聖書のお話が語られます。楽器を使って楽しく賛美します。幼児から中高生が対象です。



キリストを現代に伝える人たち ～フルベッキ～

明治に撮影された写真の中で、長く物議をかもしてきただけのものがあります。「フルベッキ群像写真」と呼ばれる写真です。そこには、数々の幕末維新の名だたる人物たちが写っていると

言われていますが、実は、彼らは佐賀藩士たちだったという説が有力です。そんな彼らに囲まれて写っているのが、宣教師フルベッキです。ギドー・フリドリッヒ・フルベッキ(1830-1898)は、1859(安政6)年、日本の開国によって横浜・函館・長崎が開港した年に来日しました。当時はまだ禁教令が敷かれていたため、表立っての伝道はできず、長崎奉行所の英語学校が彼の働き場でした。

やがて、その評判が知られるようになり、あるとき、佐賀藩の家老から中国語聖書が届けられました。何が書かれているのかを教えてくださいというのです。フルベッキは、熱心に聖書のメッセージを語り伝えました。



そして、家老は密かにキリストを信じ、洗礼を受けたのです。ご禁制の世にとんでもない

ことでしたが、家老の意志に揺るぎはありませんでした。

その後、佐賀藩士で、英語学校の教え子だった大隈重信らが長崎に設立した、佐賀藩校・致遠館(ちえんかん)に招かれることになりました。「フルベッキ群像写真」は、その頃の彼の評判を裏付けるものだったのです。

1869(明治2)年、フルベッキは明治新政府から招聘を受けます。政府の外交アドバイザーと大学での教鞭が、彼の新しい働きでした。彼の提案で、岩倉使節団の欧米視察が実現し、その流れで、1873(明治6)年に禁教令が解かれる道が開かれていきました。彼は、聖書の翻訳作業にも携わり、日本でのキリスト教伝道の発展に大きく貢献し、生涯日本で神に仕えました。

彼の労を惜しまない熱心で誠実な姿は、多くの日本人の心を打ち、大きな感化を与えました。その感化が現代に引き継がれ、日本のキリスト教の基礎となったと言っても過言ではありません。



宝塚栄光教会 牧師：岩間 洋

〒665-0021 宝塚市中州1-15-9 TEL:0797-73-6076

E-mail: info@takara-eikou.com https://www.takara-eikou.com



礼拝 毎週日曜日
10:30～11:40

希望のダイヤル(聖書のお話)

0797-77-3746

毎週更新。24時間つながります。
ホームページからも利用できます。

ポッドキャスト
でも配信中!

わたしたちは旧・統一協会、ものみの塔(エホバの証人)、モルモン教ではなく正統的なプロテスタントのキリスト教会です。お困りの方はご相談ください。

イエスから目を離さないで

私たちの人生は、平坦な道ばかり続くものではありません。起伏の激しい山道もあれば、一歩踏み外せば、底知れぬ谷底に転落しそうな険しい道もあります。つらいことや苦しいことがたくさんあります。自分でなんとかがんばってやっつけようと思いが、ある程度の所まで来ると、限界に行き当たりま

す。そして、行き詰まり、絶望するのです。
“苦あれば楽あり、それが人生さ”と達観できればいいのですが、私たち凡人は、やはり苦しみに遭えば落ち込み、嘆きます。いつそ生まれて来なければよかったとさえ思うこともあるかもしれません。

しかし、聖書には、大きな慰めになる言葉があります。それは、「信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさい。」(ヘブル人への手紙12章2節)という言葉です。聖書は、自分の力を振り絞ってがんばれ、とは言いません。私たちの前を走っていかれるイエス・キリストから目を離

さないで、その後について走っていけばよい、と言うのです。

失敗をして落ち込んだ時、勤め先や近所づき合いの中で人間関係に疲れる時、思い通りに事が運ばなくてイライラする時、あるいは、自分の力の限界を感じて行き詰まる時、目を上げて、イエス様を思い描いてください。

イエス様は、私たちの罪のために十字架の苦しみを耐え忍んでくださいました。そして、十字架で死なれたイエス様は、三日目に墓の中からよみがえられました。十字架と復活のイエス様を信じるなら、私たちはすべての罪から救われ、また死の恐れから解放されます。

神と等しくあられたにもかかわらず、私たちの所にまで下られ、十字架に命を捨てられたイエス様は、私たちの弱さや悩みを全部知っていてくださいます。そして、そんな私たちの先頭に立って、走ってくださいます。肩の力を抜いて、このイエス様から目を離さず、イエス様を仰ぎつつ走っていきましょう。



「乗鞍高原」一の瀬にて

なだらかな山並みが 馬の鞍を思わせるので
乗鞍岳と呼ばれるようになったという

北アルプスの最南端 乗鞍岳は 標高3,026m
ゆるやかな山容が 美しい山である
その乗鞍岳の裾野に広がる 乗鞍高原である

ここ 一の瀬の 辺りに来ると 豊かな自然が
息づいていることに気がつく

鳥の鳴き声が 耳をかすめて
木々の枝や 草々が 風に揺れる音
水が さらさら流れる音しか 聞こえない
豊かな空間が 広がる場所である

草原には 白い白樺が立ち
まっ白な雪を まとめた乗鞍岳と 青い空
新しい年の始まりに 尚高く仰ぎたいと願う

わたしは あなたたちのために立てた計画を
よく心に留めている と主は言われる
それは 平和の計画であって 災いの計画ではない
将来と希望を与えるものである

エレミヤ29章 (聖書)